

FOCUS - より良い医療の実現に向かって -

FOCUS

より良い医療の実現に向かって

▼ 2020年

> 2019年

> 2018年

> 2017年

> 2016年

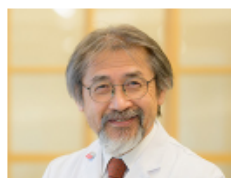
※プロフィールは取材当時のものです



NEW 整形外科の高い専門性を病院の柱に

大澤 良充 先生（医療法人純正会 名古屋西病院 院長）

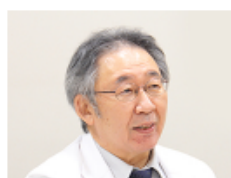
記事を読む



NEW 地域の安心を守る救急医療とJCIの認証取得

巽 孝彦 先生（医療法人マックスシール 巽病院 理事長）

記事を読む



NEW 専門医3名の体制で地域の泌尿器科医療を支える

坪 俊輔 先生（医療法人社団 いぶり腎泌尿器科クリニック 院長）

記事を読む



NEW 透析患者をトータルに支えるアットホームな病院

小川 洋史 先生（社会医療法人名古屋記念財団 新生会第一病院 院長）

記事を読む



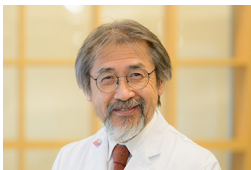
NEW 整形外科手術を強化しながら高齢者ケアにも注力する



FOCUS –より良い医療の実現に向かって–

地域の安心を守る救急医療とJCIの認証取得

医療法人マックスシール 異病院



大阪府池田市 医療法人マックスシール 異病院 理事長

異 孝彦 先生

医療法人マックスシールは大阪府の北摂地域（池田市、箕面市、豊中市）で、医療と介護を統合した事業を展開するグループです。その中核である異病院は24時間365日の救急医療を掲げ、関西地区で初のJCI認証取得病院となるなど、地域で確かな存在感を示しています。

高齢者の骨折や心筋梗塞の救急応需に注力

医療法人マックスシールの法人名McSYLは“Medical corporation of Saving Your Life”の頭文字を取ったもので、“人々の生命・生活・人生を救い、守り、蓄える”という理念が表現されています。理事長の異孝彦先生は、「1994年に理事長に就任して以来、地域の人々と職員の“安心”を追求してきました」と語ります。異病院はもともと急性期医療を提供する病院でしたが、質が高く地域の人々の安心につながる医療を模索した結果、救急疾患に焦点を絞り、夜間・休日も救急センターと病棟に常勤医を配置する24時間365日の応需体制を築き上げました。「今すぐに救わなければならない人を救うことが私たちの存在意義ではないかと思います」。

また、救急疾患についても三次救急病院との役割分担を考慮し、同院は高頻度に発生する傷病を守備範囲とし、多数の救急依頼に応えることを基本方針としています。例えば、外傷治療では重度の開放骨折や骨盤骨折、脊椎損傷には対応していませんが、一般的な骨折なら指骨から大腿骨まで対応し、10年間で5,000件以上の骨折手術を手掛けてきました。従来から診療体制が整っていた外科、整形外科と消化器内科に加え、循環器内科の体制を充実させて緊急カテーテル治療を開始しました。「救急で多く見られる四肢外傷、急性腹痛、急性心疾患に対応できる形をつくったことで、受け入れがでないケースが減少しました。救急患者は高齢者が圧倒的に多いので、現時点で救急利用の二の3割程度はカバーできると考えています」と異先生は説明します。



■救急車の進入路に設けられたERのサイン。“24時間365日救急”が明確に訴求されています。



■明るいつ外来待合室は美しい曲線を描く大きな窓が印象的です。

JCIは継続的な医療の質向上を図る仕組み

同院は2016年12月に国際的な医療施設評価機構であるJCI（Joint Commission International）の審査を受け、JCI認証を取得しました。同認証は世界中どこでも通用する基準や指標をもとにしたもので、患者さんの安全・感染管理・医療の質などに対する審査が行われ、2020年9月現在、全世界で1,035施設が認証されています。同院は日本国内で18番目、関西地区では初のJCI認証病院です。JCI認証をめざした理由について異先生は、「当院が『質の高い医療です』と主張するだけでは独りよがりになる恐れがあります。そこで、国際的な水準で第三者に評価してもらいたかったのです」と説明します。同認証は、①マニュアルに記載されたポリシーに準拠しながら、自分たちで自院に適した業務手順書をつくり上げられる、②医療の進歩に応じて3年ごとにJCIが求める要件が改訂され、更新審査も3年ごとに受けなければならないので、都度自分たちの医療の質も最新の国際基準に沿って高めていける、③審査ではサーベイヤーが現場に入り、業務手順の順守状況や行動の根拠などを確認し、患者さんや取引業者への聞き取りまで徹底的にトレースするといった特徴があるため、「小規模病院でも継続的な医療の質の向上が図れるのです」と異先生は話します。2020年はコロナ禍の中で審査を受けて認証の更新を果たしましたが、質問を受けるだけでなく、逆にサーベイヤーにCOVID-19対策を質問し、互いに学び合うことができたといいます。

病診連携に積極的な同院は、患者さんの紹介や精密検査の依頼などで地域の診療所と関係を築いていますが、「病状の悪化が心配な患者さんを残して診療所の先生が学会などに行かれるときも、当院でバックアップさせていただいています」と異先生は話します。増床も視野に入れた同院はスベスベ的な十分な余裕があり、異先生は救急医療の領域の拡大、高齢者の安心・安全を守る在宅医療や介護事業の充実を図っていく方針です。



■COVID-19対策で設けられた発熱外来。抗原検査でスクリーニングして陽性者は感染症指定病院に送っています。

■職員のためのフリースペースは、陽光が降り注ぐ環境の中、ミーティングや休憩、パソコン作業などに利用されています。



(2020年11月取材)

関連ページ

Astellas Square

医療連携 ダウンロード



REUTERS Medical News

ニュース 文献



テンプレート・素材集 ほか

ダウンロード



イクスタンジ	ゴナックス	ソスパタ	ビーリンサイト	ベタニス	ベシケア	エベレンゾ
キックリン	アーガメイト	スージャヌ	スーグラ	レバーサ	ビソノテープ	リンゼス
アコファイド	イリボー	ダフクリア	ジェニナック	ファンガード	イベニティ	ボノテオ
セレコックス	スマイラフ	シムジア	プログラフ	グラセプター		

ご利用ガイド | 利用規約 | 個人情報について | サイトマップ



Copyright(C) 2020 Astellas Pharma Inc. All rights reserved.

お問い合わせ

おすすめページ